

## 人工衛星搭載ハイパースペクトルセンサがとらえた

### 鎌倉市近郊・植生状況（1）

データ収集：米国航空宇宙局（NASA）

データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

本誌 70 号から、地球観測衛星 1 号 (EO-1: Earth Observing 1) に搭載されている「ハイパースペクトルデータ (Hyperion data)」を紹介しています。今回は Hyperion データから鎌倉市近郊の植生の状態を見てみました。上段右に、可視赤域の画像 (バンド 31 : 661nm) を、下段右に近赤外域の画像 (バンド 48 : 834nm) を掲載しました。植生のある箇所 (画像中央部) では、可視赤色域の波長帯における吸収が強く (暗色)、近赤外域の波長帯での反射が強い (明色) ことが判ります。これを強調する画像間比演算処理 (左下式) によって植生活性図を作成 (左側映像) できます。これは正規化植生指標 (NDVI : Normalized Difference Vegetation Index) を画像化したもので、広域にわたる植生の活性状況を分析する上で広く利用されています。242 バンドにおよぶ Hyperion データは、植生の広域分析に新たな知見を与えてくれるはずです。

